

農空間

第63号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

【特集】津波被災農地の ほ場整備事業の進捗 実りある大地

相双、いわき地方の津波被災農地においては、災害復旧事業に災害関連区画整理事業や復興基盤総合整備事業を組み合わせて、ほ場の大区画化・汎用化を図り、担い手への農地集積・集約化に取り組んでいます。

現在、災害関連区画整理事業2地区68ヘクタール、復興基盤総合整備事業9地区1,583ヘクタールの計11地区1,651ヘクタールで農地整備を進めており、平成26年12月現在、9地区で工事発注となり、本格的に事業に着手しています。

これらの地区の中で、いわき地方3地区においては、震災後いち早く除塩事業を行い、平成25年には営農再開を果たしており、また相双地方の作田前地区(新地町)でも農地整備が進み、平成26年度から一部で大豆の作付けが始まりました。

課題としては、工事を進める上で技術者や労働者不足による入札不調、二次製品等の資材の入手困難などが挙げられますが、債務負担等により発注工事の大型化に努めるなど、機動的に事業を執行しています。

また、道路、河川、海岸防災林及び防災集団移転の各事業と連携しながら、総合的な土地利用を展開し、魅力ある農業・農



収穫した大豆を試食しました。色よし、味よし、言うことなし！



整備された農地で大豆が元気に育ちました。

村の再興に取り組んでいます。事業の実施にあたっては県外から多くの福耕支援隊の方々に応援をいただき、野を越え山を越え、着実に復興への道を歩んでいます。今日の努力は

笑顔あふれる農空間
復興のために
【農村基盤整備課】



FOEASを整備した区画で大豆を栽培しました。生育良好です！

農業総合センターは、農業関係の技術開発や農業教育機能をもつ福島県の農業振興の拠点であり、農業土木関係の研究も行っていきます。

センター便り

地下水制御システム(FOEAS)については、大規模水田で生産性の高い水田輪作体系の確立を目指し、農業土木、栽培、経営から多面的な研究を南相馬市原町区で実施しています。

相双農林事務所と先進地の視察を行い、有効性や課題などの情報収集を行うなど、今後、FOEAS導入計画エリアに研究成果を普及できるよう、地元と連携していきたいと思っております。

この他、生態系配慮施設の管理手法の検討やため池の耐震性を簡易に検証する手法など、様々な試験課題に取り組んでいますので、研究成果について、皆さんに今後活用してもらえればと思います。

【農業総合センター 佐藤輝幸】



ため池の安定性を効率的に確認するための調査・研究を進めています。



農地周辺の生き物へやさしい農業を目指して、生き物への影響調査も行っています。



FOEASの先進地視察の成果を研究へ活かします。

福耕支援隊情報

相双農林事務所管内において、11月17日～19日(地震災第44次、21箇所)と、12月16日～19日(地震災第45次、8箇所、台風19号災、11箇所)に40箇所の災害査定が完了しました。査定に向けての資料作成、査定官・立会官への申請・説明、朱入れに至るまで、多くの支援隊の力をお借りしながら、無事に乗り切ることが出来たところです。

福耕支援隊の皆様には、災害査定のみならず、相双地方の復興のために、日夜厳しい業務に取り組んでいただいております。我々相双農林メンバーも感謝の気持ち忘れず、相双地方の早期復興へ向け、一丸となって取り組んでいきます。

◆木戸川排水機場(県営災)
青森県の吉澤さんと滋賀県の西海さん



査定官へ説明する吉澤さん、西海さん。

◆檜葉町(団体営災)
青森県の小笠原さんと東海農政局の方々



査定に立会う小笠原さん。

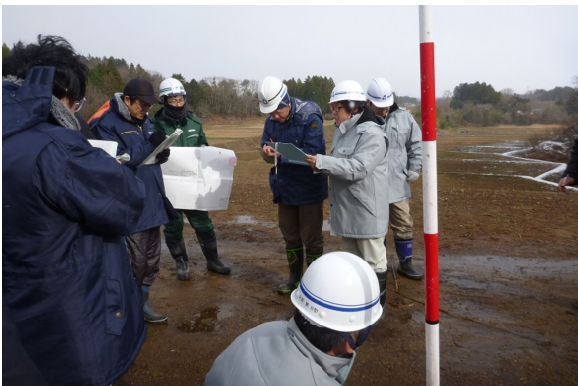
◆金ヶ森ため池(県営災)
愛媛県の岡田さん



一日も早い復旧・復興のため、悪天候でも査定を受ける岡田さん。

◆南相馬市(団体営災)

滋賀県の南さん、北海道開発局と中国四国農政局の方々



指先がかじかむ寒さに耐え、査定に立会う南さんと北海道開発局の皆さん。

◆相馬市(団体営災)

北海道の橋口さんと沖縄県の井庭さん、関東農政局の方々



冬の好天の下、査定官に説明する井庭さん。

【相双農林事務所農村整備部】

ふくしま復旧便 ― 県内からのお便り ―

県中

「藤沼湖の復旧推進について」

藤沼ダムは、受益面積837ヘクタールの農地に用水を供給する農業用ダムです。平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震により決壊し、下流の集落、農地に甚大な被害を及ぼしました。現在農業用水の供給が絶たれており早急な施設の復旧が求められています。

復旧計画については本堤・副堤ともに中心遮水型フィルダムとし、第三者の学識経験者で構成された「福島県藤沼ダム復旧委員会」の指導・助言・確認を受けながら工事を進めております。

復旧にあたっては、地域住民の皆様の安心に繋がるよう、工事の可視化を図ることを目的に地域住民の方々に対して随時現場説明会を開催しております。

地域の皆様のご協力とご理解のもと、今後も、安全・安心のもとに平成28年度の藤沼ダム完成に向けて関係者一同、一丸となつて取り組んでまいります。

【県中農林事務所農村整備部】



復旧委員の先生方の指導・助言を受けながら、工事を進めています。



現在、本堤は掘削作業を、副堤は盛土作業を進めています。



地域の皆様が安心して、納得されるまで質問してください。丁寧にお答えいたします。



見やすいように図面は色分けして、大きく。

福島県関係各課の紹介

農村計画課

課長 須田博行

農村計画課は、総勢15名で総室予算の編成・取り纏め、国土調査事業、新規地区の調査・計画、小水力発電、土地改良手法等、多岐に渡る業務を各主任を中心にチーム(島)で話し合い助け合い明るく元気に進めています。

東日本大震災から五年目となる来年度は集中復興期間の最終年度となり、正に成果が求められる年になります。当課では、本県農業の再生・復興を早期に進めるため、通常予算及び復興関連予算の必要額確保、生産振



話しやすい雰囲気を中心掛けている農村計画課のメンバー

興に直結した地区を中心とする地区の積極的立ち上げにと、日々関係機関との協議・調整に奔走しています。 “仕事は組織で行う”をモットーに、課内においても、皆様から「相談しやすい農村計画課」

農村振興課

課長 森口康弘

農村振興課は、3チームで構成され、農山村の振興に向けてハード・ソフトの両面にわたる業務に取り組んでいます。

まず、「農地活用担当」は、耕作放棄地の解消と有効活用のため、法に基づく指導・助言や荒廃状況の把握、農地の再生・活用への支援などを担当しています。

また、「農村集落担当」は、中山間地域等の農業生産活動を継続するための直接支払事業や、子供たちに農業・農村の魅力を知ってもらう「農育」などを担当

地域に根ざした水土里ネット

会津宮川地区の水源地 宮川 会津宮川土地改良区 事業課長 前田伸一さん

会津宮川地区は、会津盆地の西部を北に向けて流下する一級河川阿賀川支流宮川より取水する地域で、約4,600ヘクタールの水稻を中心とした農業地帯であります。

地区西部は、渓流水やため池に依存していたため、恒常的な用水不足に悩まされてきました。このため、用水源を確保し、

用水の安定供給と農業経営の改善を目的に、昭和55年度から国営かんがい排水事業により、新宮川ダムの新設をはじめとし、頭首工の新設・改修、宮川幹線用水路(パイプライン)の新設を行い、地区内用水の改善が図られました。併せて、地区全体の用水管理委員会を立上げ、かんがい用水の公平な配分を図ることが可能になり、安定化が進んできたところであります。



研修学習を終えて、土地改良区で記念撮影。

よって造成されたダムの役割や土地改良施設の重要性、農業はじめ身近なところにおいても非常に役立つことなどを小中学校の研修時に常々話をし、啓発を行っています。ところが、伊佐須美神社の御手洗川である宮川を見ると、新宮川ダムなど建設以前の景色と大変異なっていることに驚きま



ふるさとの川の今を描きました。

す。河川改修工事を行ったことでもあります。河川に淵などがなく平になり、洪水が抑制されるためか転石だった河川に泥が堆積し葦が茂り、柳などは、大木になりつつある状況です。環境が変わり、生態系においても少なからず影響が出ているものと思えます。

無事、今年度最後を迎えることができました。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。今年度から総室の広報を担当して、情報収集・発信の難しさとともに大きな可能性を感じた一年でした。来年度はより効果的な広報を効率的に展開したいと思っておりますので、引き続きご協力をお願い致します。(編集担当 M・N)



笑顔あふれる農村振興課のメンバー

「農空間」とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあつた空間のことです。